

経産局で働くと何ができる？ 私たちの提供価値

先輩職員インタビュー 管理職（１９８６年度入局）

所属：地域経済部 製造・情報産業課

氏名：丹羽 朋子

入局：１９８６年度（昭和６１年度）

事務官／技官：事務官

略歴：

１９８６年 ４月 札幌通商産業局(※)総務課

※現在の北海道経済産業局

１９９１年１１月 第一子出産・産休取得

１９９３年 ６月 第二子を出産・産休育児休業取得

１９９６年 ４月 新規事業課

１９９９年 ４月 中小企業課 係長

２００１年 ４月 双子を出産・産休育児休業取得

２００６年 ４月 産業人材政策課 係長

２０１２年 ４月 調査課 課長補佐

２０１４年 ５月 製造産業課 課長補佐

２０２０年 ４月 室蘭市（公益財団法人室蘭テクノセンター）【出向】

２０２３年 ４月 製造・情報産業課 参事官



Q：入局年度を教えてください。

１９８６年度の入局です。現在は製造・情報産業課で航空宇宙・モビリティ担当の参事官として勤務しています。

Q：入局した際の志望動機を教えてください。

父も３人の兄弟もエンジニア、私自身も理系科目が大好きで、父が勤める工場を見て育ち、**ものづくりに関わる仕事をしたいという夢がありました。**

ただ、当時はリケジョや現場女子という言葉もなく、ものづくりに関わる仕事が全くイメージできなかったのですが、公務員を志すことになり、**経産省がものづくりを所管する官庁**ということで志望したいと思いました。

もう一つ、まだ育児休業法もない時代に、**子育てをしながら働いている女性の先輩がたくさんいたことも、とても魅力的に映りました。**

Q：当時、子育てしながら働く方は少なかったのではないですか？

（30年以上も前の時代なので、一般的には）そうですね。長く働きたいと思っていたので、そのような先輩がいる職場は働きやすいのではと思いました。

実際、私自身、4人の子どもを育てながら、この年齢まで仕事を続けられました。最近では育児との両立を支える様々な制度が整ってきており、女性が子育てをしながら働きやすい職場だと思います。

Q：入局してから現在までのキャリアを教えてください。

係員の時代は、総務課や会計課などバックオフィス業務が中心で、このときに公務員として必要とされる行政事務や予算・会計処理の基本を教えられたように思います。1995年頃、新規開業率の低下を受け、国を挙げてベンチャー企業支援を推進することになり、新しい法律や税制が整備されました。このとき初めて企業支援に関わりました。

係長時代は子育てをしながら多くの業務を経験しました。**産業人材政策課のとき、初めてプロジェクト推進を担当することになり、予算を獲得し、民間企業や他省庁など関係者との調整を行い、また、実際に現場に出て運営にも関わるなど、貴重な経験を積むことができました。**

課長補佐になり、初めてものづくり企業支援を担当することになりました。さらに製造業を基幹産業とする自治体にも出向して、それまでの経験を活かして仕事をすることができました。

今は、**参事官として航空宇宙・モビリティ分野の業務をしています。**

Q北海道経産局の魅力はなんですか？

世の中の変化に伴って、自分たちの仕事も変化させていくところ、**新しい分野に挑戦する機会が多いところが魅力**ではないかと思います。航空宇宙・モビリティ産業担当参事官というポストも2年前に設置されたばかりです。

Q：現在の業務内容を教えてください。

製造・情報産業課では、北海道内の製造業や IT 産業の振興、企業の生産性向上に関する業務を行っています。その中で、私のチームは、成長産業として期待される航空・宇宙などの新分野に挑戦する企業の支援や、新しいモビリティサービスの導入・社会実装を支援しています。

例えば宇宙ビジネスは世界で 30 兆円規模の市場があり、2040 年までに 100 兆円規模になると予想されています。日本では、現在約 1.2 兆円の規模ですが、ロケットや衛星の開発、それらに関連する部品を製造する企業、衛星データを活用する取り組みを支援することで、市場規模の倍増を目指しています。

特に衛星データは、防災、インフラの維持管理、農林水産業、交通、物流など様々な分野での利用が期待されており、こうした地域課題の解決を目的として、衛星データを活用したソリューション開発に挑戦する企業を後押ししています。

ロケットや衛星などのものづくり企業支援に加えて、そのユーザーとなる衛星データを活用する企業も支援しながら、北海道内の宇宙産業の拡大を目指しています。

私は、このようなものづくり企業に対する支援に通算して 10 年ほど携わっており、充実した仕事をさせてもらっていると思います。

Q：自治体出向の話がありました。どちらに出向したのでしょうか？

室蘭市に 3 年間出向していました。室蘭は技術力のあるものづくり企業が、たくさん集まっている地域です。個々の企業や地域の強みを活かした取組を支援したほか、産学官が連携した新規プロジェクトの立ち上げなどに携わりました。

Q：業務を通じて特にやりがいを感じたことを教えてください。

過去に 2 つ印象深い業務経験があります。一つはベンチャー企業支援に関することです。ベンチャー企業は生き残りが非常に難しいと言われる中、係員時代に上司と一緒に支援した企業が、支援をきっかけに事業を拡大させ、その後上場するまでになりました。**30 年以上経った今でも「あの当時経産局に応援して貰ったから今がある」と社長におっしゃって頂いて、私たちの業務が社会から感謝されたと感じられるものでした。**

もう一つは、若者の早期離職やニートが社会的に大きな問題になった 2005 年頃の話です。経済産業省や文部科学省や厚生労働省が連携して、キャリア教育を推進することになりました。小中高校生に対する「キャリア教育プロジェクト」を教育委員会や産業界と協力しながら推進しました。私自身は子どもの頃から数学や物理が大好きな一方、このような好きなこと・得意なことを世の中でどう活かせば良いのか、どういう職業につながるのかイメージできませんでした。

子ども達に「今得意なことが世の中でも役に立つんだよ」と、伝えていくキャリア教育は、**私にとって「やりたかった仕事は正にこれだ！」**と思える意義のある仕事でした。

Q 入局した時と比べて局が変わってきたと思うことは？

女性管理職が増えてきたことと、何より子育てしながらキャリアアップが可能になってきたことが変わってきたと思います。

子育てと仕事を両立できるか不安に思う方もいるかもしれませんが、私自身も夫と協力しながら、仕事と4人の子育てを両立してきましたし、経産局では様々な制度を活用しながら両立をしている先輩方もたくさんいますよ。

Q：北海道・企業に対してどんなことを提供していきたいと思いますか？

技術の進展により世の中が便利になる一方、地方では急速に人口が減少しています。室蘭市に出向した3年の間にも製造業の人手不足の声は益々大きくなり、市場縮小や後継者不足で人気店が廃業し、高齢の運転手が次々と退職することでタクシーが一気に減少していく様子を目の当たりにしました。タクシーに限らず公共交通が弱体化してしまうと、買い物弱者や交通弱者が増えていくことにも繋がります。

このような地域課題を解決するためには、地域のあらゆるプレイヤーが課題を共有して、それぞれが持つ強みを活かして、ビジネスの視点から課題を解決していく「ミッション志向」のアプローチが必要ではないかと思っています。

行政の力だけでは補えない部分を如何にビジネスで解決していくか、地域課題の解決とビジネスの両方が成立する事例を作っていくことが大事ですし、力を入れていきたいと思っています。

Q：現在の課でチャレンジしたいと思っていることはありますか？

正に今の仕事とも繋がりますが、デジタル技術を活用して、中小企業の生産性を向上させたり、新たなソリューションを提供したり、MaaSなどの新しい交通サービスを社会実装させていくこと。**人口の少ない地方でも成立して持続していくビジネスモデルを数多く創出していけるように、若手職員や地域の方と協力して実現して行きたいと思っています。**

Q：これからの挑戦に向けて課題だと思うことは何でしょうか？

人材育成、新しいソリューションや新しい技術につながる研究開発、事業化や実装に向けた支援などが非常に大事になってくると考えており、そのための予算の獲得やサポートが重要だと思っています。

Q : 常に自分を奮い立たせられる要因は何でしょうか？

世の中の役に立ちたいと思う気持ちが大きいです。どの課に配属されても取り組まなければならないテーマや課題はたくさんあり、そのどれか一つでも解決して、地域が良くなったり、企業が成長したり、皆さんが喜ぶ顔を見たり、というのが、次の活力・挑戦に繋がっていていると思います。

Q : 最後に、これから入局を志望される方にメッセージをお願いします。

北海道経済産業局では、魅力ある持続可能な地域づくりのため、半導体や自動車、航空宇宙などのものづくり・食・観光・バイオ・スポーツ関連産業など様々な分野で前向きな挑戦を続けています。

進めば二つ！上手くいかないこともあるかもしれませんが、一歩踏み出すことで得られるものはたくさんあります。**ともに歩み、成長していきましょう。みなさまと一緒にお仕事ができることを楽しみにしています。**

以上